

※この文章の全部、または一部を了承なく複製、使用することを禁じます。

【外貨預金】

1. 外貨預金の仕組み

外貨預金は預け入れするときに「円」を「外国通貨」に換金して預金をするという方法を取ります。また引き出し時には逆に「外国通貨」を「円」に換金して受け取るという方法を取ります。まれに換金しないで外国通貨のまま取引する場合がありますが、一般的には換金をしているようです。

この「円」を「外国通貨」に換金する仕組みのことを『為替相場』と呼んでいます。また換金するときに使用する比率を『為替レート』と呼んでいます。この『為替レート』によって損するか得するか違ってきますが、預け入れ時と引き出し時のレートでこれらが決まるのですが、こういったことか分かりますか？ 簡単な例をご紹介しますと思います。

例えばアメリカドルで外貨預金をする場合、1ドル=100円の為替レートの時に預け入れをしたとします。日本円で100万円預け入れをすると1万ドルのアメリカドルでの預け入れができます。次に引き出すときの場合ですが1ドル=110円の為替レートになっていたとすると1万ドルを日本円に換金して110万円になるという計算になります。逆に1ドル=90円の為替レートだと90万円と言うことになりそうです。この為替レートによって換金後の金額に差額がでると言うことになるのです。こういった差がでることを『為替差損』と言うようです。またこれには金利が含まれていないので金利や手数料なんか絡んでくると純粋な損益が分かるようになります。

2. 外貨預金の種類

『外貨預金』と言っても、預金の種類や通貨の種類、商品の内容によって内容が変わってきますし、『外貨預金』を取り扱っている金融機関によって内容も変わります。ですから外貨預金をする際にはどの金融機関の、どの通貨や預金などの種類を選んだらいいか本当に困るのではないかと思います。ですからまずは外貨預金にはいったいどれくらいの種類があるのかちょっと考えてみませんか？それにより外貨預金の種類を選択するときの目安になると思います。

まず預金の種類を分類分けしてみましょう。日本で通常取引されている預金の種類には「普通預金」「定期預金」「貯蓄預金」などがあると思います。外貨預金もこれと同じように「普通預金」「定期預金」「貯蓄預金」があります。

簡単にそれぞれの預金を説明してみますと、「普通預金」はいつでも出し入れができるタイプの預金です。「定期預金」は預け入れする期間が決まっているタイプの預金で出し入れするときの制約があります。しかし、普通預金に比べると金利が高いというのが魅力です。この金利は、預け入れ期間が長く設定されているほど高くなっています。最後に「貯蓄預金」ですが定期預金と比較してみてもお金の出し入れの際の制限が少し緩和されていて、金利も定期預金よりは少し低めに設定されているタイプの預金です。しかし、普通預金よりは金利が高いことから人気が高い預金となっています。

こういった基本的に3種類の預金種類が外貨預金には存在します。それぞれの特徴を考えて選択するようにしてみたいはいかがでしょうか。